

地平線の見える街

歌・詞・曲：伊勢正三

汽車はもう出ようとしてるのに あいつと握手のひとつもできない

てれくさいものさ男同士なんて 明日から淋しくなるというのに

旅に出るのはいつもの気まぐれさと 笑いながら君は言う

今頃雪に眠る北の街で 夢を見て欲しいすばらしい友よ君は

いつまでもさ

酒と涙の味が同じだった あの頃はとてもよかったね

君はそのひげをそらないで欲しい この街で暮らした思い出として

君の部屋は車の写真と いくつかの地図に囲まれ

西の窓から黄昏れる頃 いつもきまってカリフォルニアの歌が流れて きたものだった

君はいつもぼくに言ってた 口ぐせのように

このせまい国のどこかにきっと 地平線の見えるところがあるとね

その目を輝かせて